

開講科目名	特定研究 2 (機械)		
担当教員	機械工学各教員	開講区分	単位数
		通年	4単位

授業のテーマと目標

特定研究 1 に引き続き、事例研究を通して、問題解決能力の習得を目指す。特に、具体的かつ体系的に問題解決を行うことを試み、一般的な問題解決能力の習得を目指す。研究対象とする事例は、1 件とし、密度の高い研究を行う。

授業の概要と計画

事例は、履修者が自ら関わっている問題でもよいし、一般的な問題でもよい。それに対して、徹底的な問題分析、国内外からの情報収集、最適な問題解決方法の選択、および緻密な解決手法の立案を行う。本研究の成果は、レポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。

成績評価方法と基準

成績は、レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、事例研究の深さ、正確性、一般性、で評価し、今後実際の問題を、体系的に捉えることができる能力が習得できていると判断される場合を合格とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特定研究 1 を履修していること。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

特に定めない。

参考書・参考資料等

開講科目名	インターンシップ(機械)		
担当教員	機械工学各教員	開講区分	単位数
		通年	4単位

授業のテーマと目標

受入企業での業務体験を通して、実行力、理解力、問題解決能力などの習得を目指す。特に、自身の業務改善や新たな業務の企画・立案に対して、多角的あるいは総合的な観点で問題解決ができる能力が習得できるように異業種での業務を体験する。

授業の概要と計画

複数の受入企業が提案する実習内容から1つを選択し、予め実習計画と達成目標を作成して実習に望む。実習の方法や時期は受入企業との間で調整する。実習の内容や成果は報告書にまとめ、報告会で発表を行う。

成績評価方法と基準

受入企業による評価（実習態度、実行力、理解力、問題解決能力ならびに総合所見）（50%）と、インターンシップ終了報告書（30%）、インターンシップ終了報告会（20%）の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。実習の内容、実行力、理解力、問題解決能力などで評価し、自身の業務改善や新たな業務の企画・立案に反映させられる能力が習得できていると判断される場合を合格とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

「生産プロセス技術」、「医療技術・医療用機器」、「生産システムと生産管理」を履修していること。自身の業務とは異なる業務を体験する事が望ましい。受入企業によっては同業者の実習を断る場合がある。

オフィスアワー・連絡先

決まったオフィスアワーは設けませんが、永井千秋（mail：nagai-chiaki@kobe-ipc.or.jp）に事前に連絡してください。

学生へのメッセージ

テキスト

特に定めない。

参考書・参考資料等

開講科目名	医工連携特別講義(機械)		
担当教員	未定	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

医工連携コースに関連する知識を幅広く修得することを目的に、医療機器設計製造技術や技術経営学など、いくつかのテーマを設定して講義する。また、工学の基礎知識を実際の製造現場に近い立場から理解するための講義を行う。

授業の概要と計画

主な講義内容は以下の通りである（変更する場合がある）。

- (1) 実践的工学の基礎
- (2) 実践的工学の応用
- (3) 医工学特別テーマその1
- (4) 医工学特別テーマその2

成績評価方法と基準

教員毎に講義内容に関するレポート課題を課し、学習意欲と加味して、総合的に評価して成績を判定する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

随時、資料を配布する。

参考書・参考資料等